

5月決め予算の対象にはならない。ただし活動状況によっては補正予算を組む。

- ⑦ 存在する部は、活動日誌を毎日つけ、2週間毎に提出し、それは常に部の成立条件を満たしてはならず、この条件を満たさなくなった部は、予算を凍結し、サークル化する。

成立条件

- ① 運動系10人以上の部員。
文化系5人以上の部員。
② 活動日数は週に3日以上。
③ 活動日の出席人数、活動内容等を活動日誌を毎日つけて報告する。

<資料3> 昭和52年度の新・サークル(高校)

部・サークル名	人数	高3人数
1 柔道部	14	(8)
2 野球部	18	(0)
3 テニス部	39	(1)
4 バドミントン部	21	(3)
5 バレー部(女子)	12	(0)
6 バレー部(男子)	17	(9)
7 バスケット部(男子)	11	(1)
8 バスケット部(女子)	10	(1)
9 卓球部	15	(0)
10 フラスバンド部	8	(3)
11 美術部	11	(0)
12 演劇部	17	(6)
13 茶道部	18	(5)
14 マンガ研究サークル	14	(0)
15 軽音楽サークル	10	(0)
16 コーラスサークル	7	(0)
17 女子ソフトボールサークル	6	(5)
18 サッカー部	18	(0)

<資料4> 48年当時の部活動に対する生徒の意識

1. 部活動に満足しない理由

	高校	中学
イ. 設備備品の不足	19.4%	26.6%
ロ. 練習方法や内容に不満	21.4%	32.4%
ハ. 技術的指導の不足	17%	36.8%

2. 部活動に対する意義をどこに認めるか。

- イ. 先輩、後輩などの友人関係を深めることができる。
ロ. 好きなことを同好の者が集ってすることが楽しい。
ハ. 連帯感を得ることができる。
ニ. 心身を鍛えることができる。
ホ. 息抜きなど、授業では得られないものがある。

3. 理想的な部とは

- イ. 強制加入でなく、先輩や先生の圧迫のない自由で自主的なもの。
ロ. ほんとうにやりたい者のみが行う部。
ハ. 技術的指導者がいること。
ニ. 設備・用具が整っていること。

<資料5> 部活動に対する生徒会執行部のアンケート結果より主なものを挙げる。(52年2月実施)

1. 部をつづける理由

- イ. 充実した生活が送れる。 13%
ロ. 技能の向上。 11.5%
ハ. 先輩・後輩の交友や連帯感が持てる。 8.5%

2. 部をやめたい理由。

- イ. 練習がだらだらしていて意味がなく時間の無駄。 8%
ロ. 勉強が遅れる 3.5%
ハ. 先生が練習をみてくれない。 3.5%

3. 理想的な部とは。

- イ. 集団行動に慣れ、精神身体を鍛える場となるような部。 40.5%
ロ. 広い交流が得られる。 39.5%
ハ. 同じ趣味の者同志が集まりのんびり楽しくやっていたりするような部。 26%

[V] 学校行事のあり方・問題点

鈴木 洋一郎

学校行事には、儀式・代育大会・文化祭などのような校内行事と林間学校・遠足・修学(研究)旅行のような校外行事とがあり、行事の性格、運営の上から学校主導型のもの、生徒主導型のものと分けられる。しかし多くの行事が、学校側の一方的指導で運ぶもので

なく、行事に参加する生徒と十分に話し合いを重ねてなされるべきである。校内における文化祭や五月の高校の球技大会などは、生徒会が主導の行事で教育的成果のあったことは、紀要にも既に述べてきたところである。

ここでは、主として校外行事のあり方とその問題点を求めて、昨年度、指導した結果や教官の意識アンケートを加え、特に継続研究の林間学校に秋の全校遠足と修学(研究)旅行についてまとめる。

(1) 林間学校

木曾御岳と乗鞍岳の中間盆地に学荘を創設以来、16年を経た林間学校行事は、施設、輸送その他利用上に若干の問題を残しながらも、生徒指導、またその自主的活動も一定のわくの中で定着してきているように思われる。そして以上の指導上の問題点については、昨年の研究紀要21集において、次の四項目

1. 学級単位でなされる指導
2. 生徒指導の役割をもつ教師集団の体制
3. 施設利用の期間
4. 指導内容に生徒の自主性を育成する試み

などについて述べた。そして以上の反省にたって、生徒指導の一つを担う学事部では、次のような手順を以て開設準備をしたのである。

1. 5月中旬 中間テスト中、第1次学荘整備出張
2. " 下旬 部内打合せ
3. 6月上旬 実施学年の担任との連絡会、作製した<指導手引>資料や現地のコースについての意向打診
4. 6月24日 会議 計画案 保護者への印刷物
5. 28日 保護者宛通知
6. 7月1日 研究会議<林間学校の在り方>
会議後 担当学年担任との打合せ

従来のオリエンテーリング式の山歩きを中止して、グループ単位での山歩きへの変更を提案、危険防止のため、迷路明示、指導体制をととのえてやりたい点を了承される。

7. 7月上旬 第Ⅱ次学荘整備出張
コース標識、渡河準備作業、その他学荘開設準備として、地元役場、駐在所への行事連絡の外、徒歩コース、キャンプファイヤ燃料補給、学荘周辺の除草、備品の整備。

8. 7月9日 期末テスト後

林間学校のオリエンテーション(60分)を図書館で行う。

これは学荘開設に際しての学事部の仕事であるが、担任主導型でなされるこの行事に対して、万全の準備と協力がえられても、従来の未解決な問題が残り、客観的条件が整わない限り、学級担任には短期間でも相当な負担を強いるわけである。

次に学荘利用行事についての問題点

1. 学荘の位置について

学荘の位置とは、出発地の学校から遠く、第一は輸送、食事が主となり、復路の一日とともに殆ど時間がとられてしまう。また木曾の山間や峠越えが多く不時の落石事故の危険もなしとしない。今までは無事故であり、道路も整備されてはいるが注意を要する問題である。

2. 学荘利用の行事試案

独立の校外施設を在校生が行事として利用する期間が年間14日というのはその維持費などを考えると余りにも短い、不経済である。名古屋市に保有する稲武の野外教育施設には約300人収容可能で、しかも4月中旬から11月まで計画的にフルに利用されているのと比較すると検討の余地がある。そこで春期利用の試案を考えると、

対象学年	時期	期間	回数	目的	他学年
中1	中3修学旅行	2泊3日	1	オリエンテーション	中2遠足
高3	高2研究旅行	"	2	進路指導	高1遠足

試案には多くの障害と問題があると思うが、中高に在学中、いずれも二回利用でき、しかも夏と違う晩春の自然の楽しさに心を休めることもできる。

3. 学荘の将来への予見・討議

昨年は学荘の近くに数百人のボーイスカウトのキャンプが入り、また今年は県大会として、一万人を越す人々のキャンプが立ち並ぼうとしている。更に4月上旬に新聞は<日和田高原観光開発>の計画を報じている。昨年から山荘の近傍には、木曾駒の牧場の柵が完成し、観光産業の手が山荘の静かさを破る日もそう遠くない。校外行事の在り方をもう一度その原点に立って考えなおす必要を痛感するものである。

なお、これらの問題についての実際面については、学級担任として指導に当たった米田教官が別に述べている。

(2) 全校遠足

秋の全校遠足が行事として20年以上実施されている。豊川の附属が名古屋へ移転する前のこの遠足は、長距離徒歩マラソンとも言うべきで、中女・中男と高女、高男と歩行距離を指定し、競歩したものである。秋の遠足には、この方針が活かされ、その後競歩的性格はなくなったけれども、10キロ以上のコースを中、高とも歩かせようという伝統がつづいている。

過去数年の遠足を一覧すると、次のようである。

遠 足 資 料

昭和	月 日	場 所	KM 歩行距離
42	11・16	多 度 ～ 多 度	1 3.7
43	11・14	高蔵寺 ～ 古虎溪	1 5.2
44		犬 山 ～ 可児川	
45	11・19	丸 淵 ～ 山 崎	1 5.0
46	11・22	垂 井 ～ 池 野	1 2.0
47	11・13	西藤原 ～ 大井田	1 2.5
48	11・22	伏見口 ～ 御 嵩	1 2.3
49		八百津 ～ 御 嵩	
50	11・13	Ⓧ定光寺 OL	1 0.0
	11・13	Ⓧ多 度～多 度	1 3.7
51	11・25	奥入鹿 巖頭洞	1 1.5

また昨年は次のようなプランで遠足を実施した。

昭和51年度 秋 季 遠 足

1. 月日 11月25日(木)
2. 場所 奥入鹿・巖頭洞(がんどうがま)11km
3. 集合・解散

◎場所 本校校庭 朝礼時の隊形

◎期間

中高別	集 合	出 発	集合(奥入鹿)	帰校解散
中学	8・20	8・30	14・00	15・30
高校	8・40	8・50	14・20	15・50

※現地での遠足行動時間は約4時間と予定

4. 交通機関 観光バス貸切(定員55名)
学校前出発～帰着・途中乗下車ないのが原則
5. 費用(概算・中高とも) 1100円
6. 雨天の場合一決行します

1. 出発・帰着…場所・時間とも晴天時と同じ

2. 行先 中学…サニーワールド長島
高校…旧中山道まごめ

◎ 注意事項

1. 集合時間の厳守…点呼に遅刻しないこと
2. 服装…きめられた服装をしっかりと守ること
3. 不参加…遠足当日やむをえぬ理由で不参加の場合必ずその旨を速かに学校に連絡する。
4. 地図に示された以外のコースは絶対にとらないこと、
道路 標識は絶対!いたづらをしないこと
5. 昼食は各自適当な場所でとってよいが、食後のゴミの後仕末をしっかりと責任をもってすること
6. その他乗降車について担任の指示を受ける

この計画をたてるに当たり、いくつかのコースを紙上

で調査した上で、実地踏査をして、道路の整備安全度、遠足への適否上からコースを決定した。11月11日実施が雨天順延で、2週間後に雨天決行の案をも添えて実行しようとした。好天に恵まれた当日は、穏やかな晩秋の日和で、楽しい一日を満喫したとも言えよう。

遠足行事の反省

次の事項は、遠足終了直後、教官を対象にして反省を兼ねて調査したものである。多数意見を列記すると、

1. 時期 11月上旬が適当
2. 雨のとき 順延が望ましい
3. コース 比較的整備されてよい
4. 中・高同一コースがよいか、賛否相半ば
5. 距離 もうすこし長くてもよい
6. 交通機関 バス利用の賛成がやや多いが、電車のみ、また電車との併用もよい。要するに状況により、現実的な経費の制限で定まる。
7. 集合場所 電車利用の場合は駅前集合となるが、生徒指導上から学校の集合解散がよい。
8. 経費 従来の500円から1000円となったのでコース選定にも余裕ができてよい。
9. 服装 中学は制服または運動服とするが、高校は遠足にふさわしい軽装も可とし、これら服装にはクラスが十分に討議し合ってきた。
10. 不参加者の指導 中学は全員参加であるが、高校の高学年は受験シーズン前なので、不参加が多数となるのは遺憾、十分の指導要

以上の反省事項は、今後もとりあげられるものであるが、問題点として整理すれば

1. 中高のコース選定と歩行時間
2. 遠足の時間と不参加者への指導
3. 服装 服装の自由化と誤解されない指導

などが挙げられる。

(3) 修学(研究)旅行

研究旅行と学校教育

研究旅行(本校では高2の修学旅行を特に言う)は学校教育(学習指導要領中、各教科以外の教育活動の第4学校行事の旅行的行事)の一部であり、「平素と異なる生活環境の中にあつて見聞を広めるとともに、楽しく豊かな集団行動をなすことにより、集団生活のきまり、公衆道徳などについて望ましい体験をつむような活動」である。

また研究旅行は、学校、教室が一時、短時間、校外へ移動したと見るべきで、視聴覚教育にも関係する。従つて各教科に関係のあるテーマを生徒がそれぞれ選び、プランを立てて自主的に研究するのが旅行の趣旨でもある。

調査と問題点

高三の修学旅行と対応して高二の研究旅行を実施してから十数年も過ぎた。その間に高三の修学旅行は廃止され、高二の旅行の中に活かされてきた。そして、与えられた計画内での自主的な研究から、自由にコースを選定してその中からテーマを求めようとしている。

旅行の性格の変容と生徒の意識の変化により当然問題となるべき諸点も考えられるので、高二を対象として、次のような事項を調査した。

高二 研究旅行についての調査

昭和 52.4.28 生徒指導グループ

1. コースの知識…従来の研究旅行のコースで知っているものは？(いくつでもよい)
 - ア 日帰り…近距離の飛鳥(あすか)路 あすか地方の古寺 仏像 巨石文化
 - イ 一泊二日…あすか路～いかるがの法隆寺～西の京の薬師寺 唐招提寺
 - ウ 二泊三日…更に吉野山(中世文化) 高野山(宗教文化) が加わる
 - エ 三泊四日…京都(二泊)の自由研究と広島、大久野島
2. 変更の理由…コースが大幅に変更し、山口、広島地方になったのは？
 - ア 京都へは前に一度旅行したことがあるから
 - イ 研究中心よりも観光旅行的なものを期待したから
 - ウ 遠くへ三泊の旅行をしたいから
 - エ ドラマ「花神」の舞台になって興味があるから
 - オ その他
3. コースの決定…決定とそれまでの経過
 - ア コースがクラスの話題にのほり、各人が考え始めるようになったのは？
 - イ 旅行委員を選び、コースを検討しはじめたのは？
 - ウ コース検討に対するクラスの討議は？
 - A 回数多く活発に B 二、三回で普通
 - C ほとんどなく低調
 - エ 最終決定コース以外に、話題となったコースは？
4. 本年度の旅行のコースの特徴について考えているものを書け

二つ
5. 「研究」の意味…研究旅行のケンキュウの意味をどのように考えているか…二つ
 - ア 教材的…学習教材の校外授業であるから、旅行地の選定には、教材との関係を考え研究とはいえない
 - イ 準備と態度…たとえ教材価値が少くても、自分でテーマを考え、それにとりくむ積極的な姿勢が、研究である。

ウ 現地活動…テーマが普通であり、その準備が不十分でも現地で十分に見学や調査記録の資料がえられれば研究である。

6. 研究旅行のグループについて (予定でもよい)
表中に記入

- ア テーマ (-)
- イ 対象 ㊤ 特にどこの場所で？ (-)
㊥ 何について？ (-)
- ウ 関係教科… (-)
- エ 人数は？… (-) 人

		数		所 見					
一	コースの知識	ア	0						
		イ	11						
		ウ	7						
		エ	115						
二	変更の理由	ア	74						
		イ	17						
		ウ	10						
		エ	7						
		オ	20						
三	コース決定とそれまでの経過		ア	イ	ウ				
		10月	3	4	A	26			
		11	24	4	B	75			
		12	17	18	C	29			
		1	10	21	なし	4			
		2	51	43					
		3	20	25					
		?	9	19					
エ. 外の話題 コース	山陰	従来	北陸	中国	金沢	?			
	38	21	25	18	7	25			
四	コースの特徴	未知の土地への興味 ○長州萩への魅力 ○歴史(幕末)への興味 ○物産・方言・地学 ○プランについて ハードスケジュールでない 少数の場所を詳しく 研究範囲が狭いが、 テーマは多い							
五		ア(21) イ(117) ウ(130)							
六	旅行グループ	テーマ 歴史・地理に集中 (特に萩中心) ○城下町(町並み、 建物、屋敷めぐり)							

